



# LONGIN

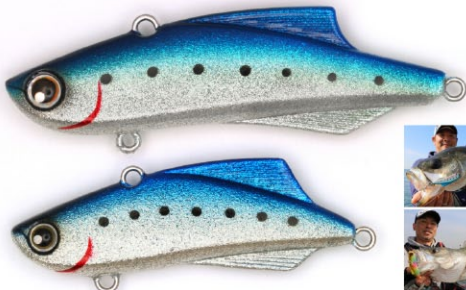
*We create in Tokyo Japan since 2011*

WEB MAGAZINE Vol.

14

キックビートのコンセプトを濃縮継承したキックビート 55mmは、70mmでは攻略しきれなかったシャローエリアやハイブレッシャー状況下のセレクトティブなターゲットに対し、出来るだけスローに長い時間アピールする事で口を使わせる事を可能にしたダウンサイジングモデル。キックビート 55は、ただサイズを小さくしただけではなく。ボディ形状、ウエイトバランスも徹底的に見直し、水抜きを少し抑え70mmのアクションより少しパイプ撻動を強く設定することで、小型サイズながら高い操作性とハイアピールを実現。ディゲームや水深のあるポイント、足場の高いポイントなどで、今までのパイプレーションやミノーでは攻めきれなかった場所を狙い打てる設計となっています。

**キックビート 70mm 20g 1,400円+税** (030,033(銀時仕様カラー)のみ1,500円+税)



**キックビート 55mm 12g 1,300円+税** (030,033(銀時仕様カラー)のみ1,380円+税)

最強波動を  
ぎゅぎゅつと濃縮!!

# KICK BAIT

背中のあたりに最大の体高を持つ菱形の一般的なパイプレーションとは違い、キックビートはボディ後方上下にヒレを配し、後方に向かうにつれて体高が高くなる独自の設計。このシルエットにこそ、キックビート最大の特徴である「水掻きの強い大きな波動」を生み出す秘密が隠されています。この独自のデザインを採用することで、「水平なスイム姿勢を保ち、かつ強い波動を出す」という従来のパイプレーションの形状では両立が難しかった矛盾点をクリア。水平姿勢を保ちながら強い波動でアピールできるため、ターゲットに違和感を与えずバイトに持ち込むことが可能です。また、ヒレが矢先の矢しりの役目を果たすことで飛行姿勢を安定させ、自重と相まって更なる飛距離を生み出します。

**初夏のディゲームに効果絶大!!**



カラー(左上から): 030: 銀時イワン(銀時)、032: ブルーマウンテッドベレー(シアン&黒)、034: 6ラ(レンズ&黒)、025: レンズキャンディ(濃粉&黒)、029: ナイトブルー(レンズ(ブルー)、031: カタオクレンジャー(メタ)  
 032: ブラックキャンディー(マグマ)、033: ゴールドレンジャー(レンズ&黒)、034: グリーンゴールドイワン(スマッシュ)、035: キョ(メタ)、036: レンズチャートベレー(スマッシュ)、009: レッドヘッド(濃粉(ブルー))

# 富山湾の魅力

# ホタルイカパターンに迫る！

イワシやコノシロ、バチパターンなど様々なベイトに合わせた釣りの中でも、特にご当地性が強いホタルイカパターン。栄養豊富な富山の海で確立された釣法の魅力について解説する。

Text by 小堺篤司

# ホタルイカの生態と身投げ

ホタルイカは、日本海全域と太平洋側の一部に分布しており、普段は水深200～700mの深海に生息しています。触手、体には発光体があり、何かに触れたり敵に襲われたりした時に、青白く幻想的な光を放ちます。

ホタルイカの産卵は2～6月で、特に富山湾は沿岸から急激に深くなっている独特な地形により、深海からの湧昇流（上昇海流）と呼ばれる流れに乗って岸近くまで産卵にやって来ると言われています。

ホタルイカは、月の光を目印に自分の位置を把握しており、月明かりの無い新月の潮回りの夜に、自分の方向を見失い、産卵後、弱って沿岸に接岸してきます。

最終的には浜に打ち上げられ、死んでしまいます。これが富山湾の春の風物詩と言われる『ホタルイカ的身投げ』です。



上／産卵を終え、魚たちに食べられることなく打ち上げられたホタルイカ。ハイシーズンには砂浜一面にこの光景が続いている。

右／ホタルイカシーズンのちょうど真ん中となる4月下旬のサイズはこれくらいだ。



## 接岸時期と釣行のタイミング

ホタルイカ的身投げは、いつでも見られるというわけではありません。ホタルイカは日没から夜明けまでの満潮時に合わせて、大陸棚に産卵します。沿岸に接岸しやすいのは月明かりの無い新月回りで（満月でもまれに出るときはあります）、ホタルイカの接岸前から接岸直前がルアーに最も反応しやすくなります。ですから、新月の潮回りで

干潮から満潮前後の上げ潮が、よいタイミングと言えます。

しかし、海面一面がホタルイカだらけになってしまうと、魚たちは本物のホタルイカに気をとられ過ぎてしまい、ルアーには全く反応しなくなってしまいます。また、ホタルイカは真水を嫌いますので、多量の雨の後などは、河川からの雨水の流入により接岸できなくなってしまうので、晴れ続きで濁りの無い日がよいでしょう。

接岸したホタルイカを捕食しているのはシーバスだけではなくありません。マダイやクロダイ、メバルやソイなどの根魚から青物まで、全ての魚たちがこぞって捕食しています。ルアーでホタルイカを演じてそれらの魚を狙うことを、一般に『ホタルイカパターン』と呼びます。

春のシーバスたちは、産卵後で体力も落ちています。そんなシーバスたちには、弱って流され漂うホタルイカは、稚アユやイワシなどの小魚と違って、追い回すことなく、簡単に捕食できる大切な栄養源なのです。では、ルアーでホタルイカを演じ、体力の落ちたシーバスに口を使わせるにはどうしたらよいのでしょうか？

## ホタルイカパターンのルアー

ホタルイカの体長は大きくても10cm程度ですので、ホタルイカに合わせるとなると8～10cm前後のシンキングペンシル、シンキングミノー、フローティングミノーなどがよいと思います。



ホタルイカパターンの定番となりつつあるレビン。サイズ、アクションともにホタルイカにマッチ・ザ・ベイトといえる。

また、ホタルイカの形をしたルアーなどもクロダイのホタルイカパターンで人気ですが、シーバスに関してはあまり形にこだわる必要はないと私は考えています。自分の釣りをするポイントの水深、潮流の速さに合わせればよいでしょう。

ルアーカラーはセオリー



通り、澄み潮ならクリア系からナチュラル系、濁り気味ならパール系でよいでしょう。テールフックなどに夜行玉を付けてホタルイカの光を演じるご当地チューンや、グローカラーも効果的なときもありますが、スレも早く、マルタウグイなど外道のアタリが増えるので、状況に合わせて使用したほうがいいですね。夜行玉に関しては、グローの光が消えかかってきたくらいがシーバスからの反応がいちばんよいと感じています。

## ルアーアクションはどうする？

---

リトリーブスピードは基本的にデッドスローからスローです。弱ったホタルイカが漂うようなイメージでリトリーブさせて、反応を見ながらフォールを交えたりします。潮流が速い河口域などでは、ドリフトさせてホタルイカが流れてくるようにリトリーブさせます。

シンキングペンシルでは、軽くリフト&フォールやスロージャークで誘ってもいいと思います。シンキングペンシル、ミノーで表層から中層を探って反応がないときは、バイブレーションでボトム付近をドリフトさせてみて下さい。

中層より下のレンジを探るときは、従来のバイブレーションよりも流れに反応しやすく、ドリフトさせやすいボディ形状のキックビート

70 (15g & 20g) がオススメです。強波動のキックビートを使う場合は、波動が出るか出ないかくらいのスピードで、ボトムもしくはボトムの少し上層をドリフトさせるのが“キモ”となります。

## 時期に合わせた狙い方をする

### ■ホタルイカパターンの前期

ホタルイカは4～5月が最盛期ですが、早期の2月から3月上旬の新月にも少なからず出ています。

すでにシーバスもホタルイカを意識しているのですが、この時期は水温が低く、根に付いてじっとしているため、なかなか口を使ってくれません。

根についているシーバスは、流れに対してクロスストリーム、もしくはダウンストリームにルアーを通してバイトに持ち込みにくく、バイトはあるがヒットしないか、ヒットしてもすぐ外れてしまいがちです。そんな時はアップストリームからヨタヨタとリトリーブさせながらフォールさせ、シーバスの鼻先ヘルアーを送り込んでやるとヒットに持ち込みやすくなります。

この釣り方で有効なルアーがブックスです。ブックスはアップストリームからリトリーブさせてもヨタヨタとジョイント特有のアクションをしてくれるので、低活性なシーバスの弱い吸い込みバイトもフッキングできます。この時期はバイトがあっても即アワセは禁物で、シーバスが反転してからフッキングさせるとヒット率アップにつながります。

リトリーブスピード



ホタルイカパターン中に、現在テストしているプロトルアーでもコンディションの良いシーバスをキャッチ。



ホタルイカをたっぷりと捕食したあとのシーバス。ベイトが豊富な富山湾の魚はコンディションがよく引きも強い。

は流れの速さに同調させるか少し速いくらいで、ルアーがクロス、もしくは少しダウンの位置から戻ってくるようにトレースさせましょう。この釣り方は、沖を回遊しているシーバスよりも、ベイトの流下を待ち構えているシーバスに有効な手段とも言えますので、ホタルイカパターンのみならず、色々なパターン、ルアーに応用ができます。ただし、ラインテンションが掛からない釣り方なので、そこには注意して下さい。

#### ■ホタルイカパターンの後期

最盛期の4～5月、終盤の6月には水温も上がって安定するので、シーバスの活性も上がってきます。5～6月にはホタルイカも大きな個体が多くなるので、フランクイーなど12cmクラスのみノーに反応するようになります。

最盛期には、接岸してきたホタルイカが魚たちに追われて、左右にスーッと発光しながら逃げるのが見られるときがあります。このエスケープアクションを再現できるルアーがレビンです。

ホタルイカパターンにはシンキングペンシルが鉄板ルアーにもなりつつあるのですが、レビンの左右に大きくスラロームするスウィングスラロームアクションはレンジキープがしやすく、ホタルイカが逃げる、もしくは潮流の変化で流される動きの演出がしやすいです。リトリブの際にラインを通してレビンの動きを感じながらクックッとリトリブすると、流れの変化などで左右に大きくスラロームさせられるので、実践してみてください。



レビンのフックはフロント、リア共に ST-46#6 が標準装備ですが、私はフロントのみ #4 に交換しています。これは、元々レビンはレンジキープ力がありますが、ダウンストリーム時にもキッチリ狙ったレンジをキープさせるためです。

ホタルイカが接岸してきているのになかなかバイトが無いときには、フローティングミノーの『ほっとけ』メソッドが効果的です。これはその名の通り、フローティングミノーを潮流に任せてラインを張らず緩めず、もしくはラインを出しながら水面、水面下を漂わせるだけの釣り方で、魚が流れてきたホタルイカだけを捕食しているときに使います。このパターンのときは、リトリブすると全くバイトが得られないので我慢の釣りになりますね（リトリブするのは流すポイントを変えるときだけです）。

私はほっとけではフランキーを使用しています。フランキーは流れにめっぽう強いフローティングミノーで、水面下 60cm くらいまでをリップレスミノーのように流れを受け流しながら漂わすことができ、流れの変化に即座に反応し、喰わせのタイミングを作ってくれます。スローリトリブなどで全く反応がないのに、フランキーのほっとけで突然アタリが連発！ ということもあるので、ぜひ試してみてください。いいメソッドです。

5月の後半からの新月回りで、ホタルイカパターンも最終戦に入ります。これからは稚アユなどのベイトフィッシュも増え、シーバスもベイトを追い回すようになってきますので、ホタルイカパターンだけにとらわれないように楽しく釣行しましょう。

富山のホタルイカパターン、どこでも数釣り&ランカーを狙えるチャンス!？があるので、ぜひチャレンジしてもらいたいですね。



#### 小堺篤司 (こざかい・あつし)

LONGIN.フィールドスタッフ。河川や港湾、サーフをホームとし、ウェーディングスタイルを中心に高い釣果を誇るアングラー。関東圏外唯一のフィールドスタッフとして活躍中。

LONGIN. が贈るフリーペーパー

# ロンジンマガジン Vol.3

弊社製品取扱店にて絶賛配布中です!



好評頂いている弊社のフリーペーパー『ロンジンマガジン』第3号がよいよ配布中!

今号はさらに増ページをしたレビン総力特集号。レビン開発秘話から使い方まで、弊社ルアーデザイナーである伊藤が解説しております。

ほかには弊社フィールドスタッフによるシチュエーション別の狙い方やカラーについての話なども収録しているので、シーバスの攻略ガイド本としても保存していただきたい内容になっています。

もちろんロンジン全製品のカタログも掲載。伊藤も愛読書としているロンマガ3号、無料配布本なのでぜひ店頭にてお手に取ってお持ち帰り下さい!

## ロンジンマガジン Vol.3

配布価格：¥0 (フリーペーパー)

版型：A5 版 36 ページオールカラー

発行：株式会社 LONGIN.

LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中  
(数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい)



**LONGIN**

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

# WEB MAGAZINE Vol.14

発行日：2014年5月26日

株式会社 LONGIN.